

# BCЭ に現れた日本語固有名詞の アクセントについて

千葉 萌 一 郎

ロシア語のアクセントについてはこれまで多数の学者が、それぞれ通時的に、共時的に捉えて論じているが、私がここでとり上げたいと思っているのは外来語としての日本語、特に固有名詞が、ロシア語のなかでどのようなアクセントの取扱いを受けているかということである。同じスラブ語でもチェッコ語では第1音節に、ポーランド語では語末から二つめの音節に固定アクセントを持っているのに、ロシア語ではそれが移動アクセントに形を変えている。そのロシア語のなかで日本語は、ポーランド語と同じように語末から二つめの音節にアクセントを持っているとよく言われている。固有名詞論ではすぐれた業績をあげておられる A. B. Суперанская も大体同じような意味のことを述べている（後述）。

しかしながら戦後を契機として日ソ間の距離がちぢまるにつれて、ロシア語のなかに日本語、特に人名、地名等の固有名詞を見出すことが多くなった。これ等の日本語はロシア語によって、どのような形のアクセントが与えられているのであろうか。これに対して BCЭ 3 版が解決してくれる場合もあるし、またそうでない場合もある。たとえ解決されている場合でも問題がない訳ではない。地名を例にとると、АСА́МА, АСАХИГÁВА, УРА́ВА, ЙОККАЙ́ТИ のように、語末から二つめの音節にきちんとアクセントがおかれていても、その一方では ЙОКО́СУКА, ОБИ́ХИРО, СА́ППОРО, ЭХИМÉ の形もまた見られる。

これは一体どうしたことであろうか。語末から二つめの音節にアクセントがあるという事実は、どの程度の占有率を持っているのであろうか。これは不明である。私はこの問題を数量的に捉えてある程度明らかにし、その傾向を確かめてみたいと思った。資料としては BCЭ 3 版を用いた。予期しない発見もあり興味ある事実もない訳ではなかったが、限られた時間のなかでの作業なので見落とし等不備の点があるのもまた免れない。しかし、それにしても一般的な傾向は察知できるであろう。

日本語がロシア語のなかに受入れられる過程は、音声を媒介とする場合と視覚的な文字を媒介とする場合とがあって、しかもそれには直接と間接の二つの場合が考えられる。音声を通じて直接ロシア語のなかに浸入する場合日本語のアクセントは、ある期間その受入れられた社会グループによって保持されようが、やがてその語の使用空間が拡大するにつれて、ロシア語の新らしい言語環境のなかで抵抗をくり返しながら、ロシア語に内在する規則に適応して次第に一定の形をとるようになる。この場合に日本語のアクセントが失われることは容易に理解される。

これに反し、新聞、雑誌、図書等の視覚的な文字を通して浸入する場合は、何等抵抗なしに新らしいロシア語の言語環境のなかで、それにふさわしいアクセントが与えられよう。

A. B. Суперанская は Ударение в собственных именах в современном русском языке のなかで次のように述べている。

「時として借用語のアクセントの位置は、伝統によってのみ決る。例えば、中国語は最終音節に、日本語は最終音節直前にアクセントがある。これはロシア語におけるアクセントの基本

的傾向に一致している。閉音節に終る語では最終音節に Янцзыцзян, 開音節に終る語では最終音節の直前にあるからである, Кагосіма, Хиросіма. しかしながら専門家の見解によれば Хиросіма, Кагосіма のもつアクセントは, 日本語のメロデーを一層正確に伝えているという」c. 18. 同書.

ここでカード整理のためにとった目安を述べれば次の通りである。

収集された語はゴシックで記された見出し語によるものであるが, 若干の他の場合もある。КОММУНИСТИЧЕСКАЯ ПАРТИЯ ЯПОНИИ (КПЯ; Нихон Кёсанто). この場合には Кёсанто で採用した。また КУРОСАВА Акира の項のなかの Расёмон も同様である。

私は収集した日本語カードをその意味内容から〔Ⅰ〕人名, 〔Ⅱ〕地名, 〔Ⅲ〕その他の固有名詞, 普通名詞の三つのグループに大別した。そして, それぞれのなかで, 語の外面的特徴である語末要素と音節構造に従って分類配列して集計することにした。語末要素は日本語の特徴により次のような形をとった。-А, -Я, -И, -У, -Ю, -Э, -Е, -О, -Ё, -Ы, -Й, -Н. また音節構造は2音節, 3音節, 4音節とし, 5音節以上の語はその数が少くないので便宜上4音節語に一括することにした。5音節語以上の語は〔Ⅰ〕人名では4語, 〔Ⅱ〕地名では18語, 〔Ⅲ〕その他の固有名詞, 普通名詞では4語, 計26語であった。地名の КАГАМИГАХАРА が6音節で最も長かった。1音節語は調査の対象にならないのは当然である。その数は地名の ЦУ, 普通名詞の ДЗА, ДЗЭН, СЕН の都合4語にすぎなかった。

語尾により -А, -Я, -И 順に配列された語は, 更にそれぞれが2音節語, 3音節語, 4音節語及びそれ以上の音節語の三つのグループに分けられ, 次に最終音節にアクセントを持つ語には記号Ⅰを, 語末から二つめの音節にある語には記号Ⅱを, 三つめ及びそれ以上の音節にある語には記号Ⅲを与えた。

アクセントの記入のない語はとり上げることができない。人名では КУБО Риого, 地名では КАДОМА, КОСИГАЯ, その他の固有名詞, 普通名詞では ДОМЭЙ, ДОМЭЙ ЦУСИН, ЭН-ЭЙЧ-КЕЙ, БАЙ-У, ГЭНРО, ДЗЮ-ДО, «МИНКЭН УНДО», ХИНИН の計11語である。1語のなかにアクセントが2個所記入されている場合は採用しなかった。地名では КИУ-СИУ, 普通名詞では ДЖИУ-ДЖИЦУ の計2語である。КИУ-СИУ の場合は см. КЮСЮ とあるし, また ДЖИУ-ДЖИЦУ の場合はアクセント記号のない ДЗЮ-ДО があったことと, ДЖИУ と ДЖИЦУ をばらばらに切り離した場合は, ロシア語として受け入れられる可能性が全くないという理由からである。但し, Ё を含む語が他にアクセント音節をもっている場合には, Ё を無視して他のアクセント音節で採用した。地名では ТОЁНАКА, 普通名詞では СЁГУН 等がある。Ё が他のアクセント音節を含まない場合は Ё で採用した。ТАЙСЁ, СОХЁ 等である。

形容詞もまた採用しなかった。АНСЭЙСКИЕ ДОГОВОРЫ, КИОТСКИЙ УНИВЕРСИТЕТ, СИМАБАРСКОЕ ВОССТАНИЕ, СИМОНОСЁКСКИЙ ДОГОВОР 1895, ТОКИЙСКАЯ РАВНИНА, ТОКИЙСКИЙ ЗАЛИВ, ТОКИЙСКИЙ ПРОЦЕСС, ТОКИЙСКИЙ УНИВЕРСИТЕТ, ЦУСИМСКИЙ ПРОЛИВ, ЯМАСИРСКОЕ ВОССТАНИЕ 計10枚のカードであった。

普通名詞 СЁГУНАТ, СИНТОИЗМ の2語はロシア語としての形態が整っているのでこれまた採用を見合せた。

なお1枚のカードのなかに標目となる語が二つ以上ある場合には副出カードを作り, また同じ標目が2枚以上のカードにわたっている場合にはこれを1枚に統合することにした。詳細は

それぞれの個所で述べることにしたい。

〔I〕 人名について。

人名カードは副出カード 31 枚を含めて 合計 220 枚であった。このなかの同じ姓、同じアクセントのカードは 1 枚に統合することにして、2 枚 1 組が 16 組、3 枚 1 組が 2 組の合計 18 組となった。従って調査対象カードは 200 枚に圧縮された。

人名は最初に姓、次に名前の順序で記されているのが普通である。MÓRI Oгай, ФУКУ-ДЗÁВА Юкити。しかし, ÁБЭ КÓБО は совр. японский писатель, см. Кобо Абэ とあって、いかにもソヴェト社会で広く読まれている作家であることを印象づけている。同様の語順には МОРОНÓБУ Хисикава, МОТОНÓБУ Кано, УТАМÁРО Китагава, ХАРУНÓБУ Судзуки 等がある。ÁКИТА Удзяку のように姓と名前にそれぞれアクセントが記されている場合には 2 語として扱い、名前を副出して配列したことは前述の通りである。ИКЕЯ-СÉКИ КОМÉТА の場合も同様に СÉКИ を副出した。КАТÓ Генити, КАТÓ Киёмаса の КАТÓ は 1 語として扱い 1 枚のカードに統合した。ИСИКА́ВА Дзюн, ИСИКА́ВА Такубоку, ИСИКА́ВА Тацудзо も同様 1 枚に統合した。-ЭЙ は СИКИТЭЙ Самба, ФТАБА́ТЭЙ СИМЭЙ に使用され、-ЕЙ は歴史的人物 ДЭНБÉЙ にのみ見出された。

前述のように 1 語のなかに Ё とアクセント母音が共存しているときは Ё を無視してアクセント母音のみをとった。ЁСА́НО Акико, СА́ЙГЁ 等。СА́ЙГО Такаもり, СА́ЙТО Макото があるので СА́ЙГЁ の Ё を無視することは容易であった。ТОЁКУ́НИ Утагава, ТО́БА СО́ДЗЁ も同様である。ЦУБОУ́ТИ Сёё の -ё はいずれも無視することにした。

人名について A. B. Суперанская は次のように述べている。「日本語の名前は母音に終わっている場合が多い。そのために、たとえ原語のアクセントが異なっても、通常語末から二つめの音節にアクセントをおいて発音されている。ここでは受入れられる（ロシア）語の伝統が、人に知られていることが少くて、また理解される可能性もうすい原語の実際のアクセントにうち勝っているのである。例えば語末から二つめにアクセントを持って Мацуóко, Анаха́си, Наму́ро, Мацумóто, Тосíко 等が発音されている」с. 114. 同書。

〔I〕 人 名

|    | 2 音 節 |    | 3 音 節 |    |     | 4 音 節 |    |     | 計  |
|----|-------|----|-------|----|-----|-------|----|-----|----|
|    | I     | II | I     | II | III | I     | II | III |    |
| -А | 1     | 10 |       | 14 | 5   |       | 32 | 3   | 65 |
| -Я |       | 1  |       | 3  |     |       |    |     | 4  |
| -И |       | 8  |       | 18 | 2   |       | 26 | 2   | 56 |
| -У |       | 1  |       | 3  |     |       | 5  |     | 9  |
| -Ю |       | 1  |       |    |     |       |    |     | 1  |
| -Э |       | 2  |       | 5  | 3   |       | 2  |     | 12 |
| -Е |       |    |       |    |     |       | 1  |     | 1  |
| -О | 3     | 14 |       | 4  | 4   |       | 8  |     | 33 |
| -Ё | 4     | 3  | 3     |    |     | 1     |    |     | 11 |
| -Ы |       |    |       |    |     |       |    |     |    |

|    |     |      |   |    |    |     |    |     |     |
|----|-----|------|---|----|----|-----|----|-----|-----|
| -Й | 2   | 1    | 3 | 1  |    |     |    |     | 7   |
| -Н | 1   |      |   |    |    |     |    |     | 1   |
| 計  | 11  | 41   | 6 | 48 | 14 | 1   | 74 | 5   | 200 |
| %  | 5.5 | 20.5 | 3 | 24 | 7  | 0.5 | 37 | 2.5 | 100 |

パーセント計算は少数点以下3位までとしあとは切り捨てた。

## 〔Ⅱ〕 地名について。

地名カードは合計244枚で、このなかには副出カード8枚、同じ地名、同じアクセントのために統合された34組のカードが含まれている。

ХИРОСИ́МА にはアクセント母音が二つあるが、この場合はそれぞれを採用することにした。А.В. Суперанская によれば ХИРОСИ́МА は офиц. とあるからである。с. 345. 同書. ИОКОГА́МА は см. Ёкохама とある。見出し語には ЁКОХА́МА, Иокогама とありアクセントは同じなので ИОКОГА́МА は無視した。СЕТО-НАЙКА́Й は2語として扱い、НАЙКА́Й を副出した。ТУБУ-САНГА́КУ も同様である。それぞれが語として認められるからである。ЁККАЙ́ТИ, Ёккайти は2語として扱った。アクセントが異なるためである。ФУ́ДИ-ХАКО́НЕ-И́ДЗУ は3語として扱い、ХАКО́НЕ, И́ДЗУ を副出した。ТО́СА は地名と絵画の2項目としてあるが、地名のところで統一した。ИЕ́ДДО と Э́ДО はそれぞれを採用した。СЕ́ВА は南極基地としての名称と、年号としての名称の2項目があるが、これは地名のところで一括した。

А.В. Суперанская は日本語地名について次のように述べている。「日本語の地名はロシア語のなかで、最終音節の直前に伝統的なアクセントを持っている。Фудзия́ма, Хироси́ма, Цуси́ма. 語末から三つめにアクセントを持つ То́кио は唯一の例外であるが、全くの例外とはいえない。何故ならロシア語に引き渡された音節構成 и は、非音節構成 i から受入れられたからである。しかしながら日本語地名の伝統的なアクセントは、到底実際のアクセントに一致するものではない。それは一般的に日本語にとって、ロシア語の呼気アクセントは知られていないからである。まさにこの故に、伝統的なアクセント Кагоси́ма を Кагосима に改めようとする試みは、その基盤がないように思われる。それは日本語のメロデーの特殊性を伝えることなく、すでにでき上っている伝統に混乱をもたらすだけである」。с. 230. 同書。

## 〔Ⅱ〕 地 名

|    | 2 音 節 |   | 3 音 節 |    |   | 4 音 節 |    |   | 計  |
|----|-------|---|-------|----|---|-------|----|---|----|
|    | I     | Ⅱ | I     | Ⅱ  | Ⅲ | I     | Ⅱ  | Ⅲ |    |
| -А | 1     | 9 |       | 15 | 8 |       | 40 | 9 | 82 |
| -Я |       |   |       | 2  | 1 |       | 1  | 3 | 7  |
| -И | 1     | 9 |       | 12 | 3 |       | 20 | 7 | 52 |
| -У |       | 8 |       | 7  | 2 |       | 4  |   | 21 |
| -Ю | 2     | 3 |       |    |   |       | 1  |   | 6  |
| -Э |       | 1 | 1     |    |   |       | 2  |   | 4  |

|    |      |      |     |      |     |     |      |      |      |
|----|------|------|-----|------|-----|-----|------|------|------|
| -E | 2    | 2    | 3   | 3    |     |     | 3    |      | 13   |
| -O | 5    | 7    |     | 14   | 4   |     | 2    | 7    | 39   |
| -Ё | 3    |      |     |      |     |     |      | 1    | 4    |
| -Ы |      |      |     |      |     |     |      |      |      |
| -Й | 6    |      |     |      |     |     |      | 1    | 7    |
| -Н | 5    | 1    | 2   |      |     | 1   |      |      | 9    |
| 計  | 25   | 40   | 6   | 53   | 18  | 1   | 73   | 28   | 244  |
| %  | 10.2 | 16.3 | 2.4 | 21.7 | 7.3 | 0.4 | 29.9 | 11.4 | 99.6 |

〔Ⅲ〕 その他の固有名詞，普通名詞について。

このグループでは主として人名及び地名を除く，固有名詞と普通名詞を扱った。人名または地名と，ロシア語あるいは日本語普通名詞とが組み合わされた場合と，もう一つは純粹に日本語普通名詞だけの場合とである。前者には МИЦЎИ БАНК, ЯЁИ КУЛЬТУРА 等がある。このカードは 114 枚で，このうち 副出カードが 20 枚，統合された 3 組のカードが含まれている。

БАНК ТÓКИО の ТÓКИО は，地名のなかに配列されているのでここではとり上げなかった。АСА́ХИ СИМБУ́Н 及び МА́ЙНИТИ СЫ́МБУН のように СИМБУН の異なるアクセントは注目に価する。АСА́ХИ 及び МА́ЙНИТИ のそれぞれ異なるアクセントの影響によるものであろうか，不明である。《ГЭ́НДЗИ-МОНОГАТА́РИ》の ГЭ́НДЗИ は姓ではあるが，ここで副出した。БУ́ДДА は日本語と共通の形をしているのでとり上げた。РЙ́КША はおそらく西ヨーロッパ廻りで侵入したのであろうが，日本語なので採用した（英. ricksha, 独. Rikscha），同様に УКИ́ЙЁ-Э（英. ukiyoe, 仏. l'ukiyo-e, 独. Ukiyoe），КИМОНО́（英. kimono, 仏. kimono, 独. Kimono），ГЭ́ЙША（英. geisha, 仏. geisha, 独. Geisha）等も間接の侵入であろう。《МА́ЦУКА́ВА ДЕЛО》，《ТОЁ́ТА МО́ТОР》等の地名はそれぞれここでとり上げた。КАНА́ は 4 音節語になると，КАТА́КАНА, ХИРА́ГАНА となって，語末から三つめの音節にアクセントが移動している。

次にいくつかの普通名詞をあげてみる。ТА́НКА, ХА́ЙКУ, ХО́ККУ; ДЗЁ́РУРИ, КАБУ́-КИ, НО́О; ИКЭ́БАНА, КО́ТО, СЯ́МИСЭ́Н; БУСИ́ДО, САМУРА́И, ХАРА́КЙИРИ, ЦУ́-БА; ДЗА́ЙБА́ЦУ, КАМИКА́ДЗЕ, Ё́ККИ; КИНКА́Н, КУДЗУ́, МУ́МЕ; ИВАСИ́, МА́-СУ; КУРОСИ́О, ОЯСИ́О。

〔Ⅲ〕 その他の固有名詞，普通名詞

|    | 2 音 節 |    | 3 音 節 |    |     | 4 音 節 |    |     | 計  |
|----|-------|----|-------|----|-----|-------|----|-----|----|
|    | I     | II | I     | II | III | I     | II | III |    |
| -А | 1     | 9  |       | 2  |     |       | 4  | 2   | 18 |
| -Я |       |    | 1     | 1  |     |       |    |     | 2  |
| -И |       | 6  | 1     | 6  |     |       | 9  | 2   | 24 |
| -У | 1     | 3  |       | 2  | 1   |       |    |     | 7  |

|     |      |      |      |      |     |  |      |     |      |
|-----|------|------|------|------|-----|--|------|-----|------|
| -IO | 1    |      |      | 1    |     |  |      |     | 2    |
| -Ə  |      |      | 1    |      |     |  | 1    | 1   | 3    |
| -E  |      | 1    |      |      |     |  | 1    |     | 2    |
| -O  | 4    | 4    | 3    | 7    | 1   |  | 3    |     | 22   |
| -Ė  | 3    |      | 2    |      |     |  |      |     | 5    |
| -bi |      | 1    |      |      |     |  |      |     | 1    |
| -ñ  | 4    | 1    | 5    |      |     |  | 1    | 1   | 12   |
| -H  | 8    | 6    | 1    | 1    |     |  |      |     | 16   |
| 計   | 22   | 31   | 14   | 20   | 2   |  | 19   | 6   | 114  |
| %   | 19.2 | 27.1 | 12.2 | 17.5 | 1.7 |  | 16.6 | 5.2 | 99.5 |

次にⅠ型及びⅢ型アクセント語の合計数と、Ⅱ型アクセント語の合計数とのパーセントを、それぞれのグループのなかで見ていくと次のようになる。

人名の2音節語ではⅠ型(11語)とⅡ型(41語)のパーセントは、21.1と78.8であるが、3音節語ではⅠ型+Ⅲ型(20語)とⅡ型(48語)とでは29.4と70.5となって、ややⅡ型は減少するものの、4音節語ではⅠ型+Ⅲ型(6語)とⅡ型(74語)とでは7.5と92.5となって、Ⅱ型が圧倒的に高率であることを示している。

地名の2音節語ではⅠ型(25語)とⅡ型(40語)のパーセントは38.4と61.5になり、3音節語ではⅠ型+Ⅲ型(24語)とⅡ型(53語)とでは31.1と68.8になる。更に4音節語ではⅠ型+Ⅲ型(29語)とⅡ型(73語)とでは28.4と71.5となって、音節が増加するにつれてⅡ型が漸増する傾向を示している。

しかしながらその他の固有名詞、普通名詞になると2音節語のⅠ型(22語)とⅡ型(31語)のパーセントは、41.5と58.4となって、人名及び地名に見られるような著るしい差異は認められない。3音節語のⅠ型+Ⅲ型(16語)とⅡ型(20語)は44.4と55.5となり、多少Ⅱ型は減少するものの、4音節語ではⅠ型+Ⅲ型(6語)とⅡ型(19語)は24と76になって、人名におけると同様Ⅱ型が高率となる。

以上のことからすべてのグループに共通に見られることは、音節が増加するにつれてⅡ型アクセントの漸増が認められることである。

またⅠ型及びⅢ型アクセント語とⅡ型アクセントのパーセントを、音節とは無関係に各グループごとに見ると、人名のⅠ型+Ⅲ型(37語)とⅡ型(163語)のパーセントは18.5と81.5である。次に地名のⅠ型+Ⅲ型(78語)とⅡ型(166語)のパーセントは31.9と68になる。その他の固有名詞、普通名詞のⅠ型+Ⅲ型(44語)とⅡ型(70語)は、38.5と61.4になってⅡ型アクセントは漸減の傾向を辿り、Ⅱ型アクセントは人名で極めて高いことを示している。

全体のⅠ型+Ⅲ型(159語)とⅡ

グループ別表

|                  | Ⅰ    | Ⅱ    | Ⅲ  | 計    |
|------------------|------|------|----|------|
| Ⅰ. 人 名           | 18   | 163  | 19 | 200  |
| Ⅱ. 地 名           | 32   | 166  | 46 | 244  |
| Ⅲ. その他の固有名詞、普通名詞 | 36   | 70   | 8  | 114  |
| 計                | 86   | 399  | 73 | 558  |
| %                | 15.4 | 71.5 | 13 | 99.9 |

型(399語)のパーセントは28.4と71.5となって、Ⅱ型の占有率が高いことを物語っている。

語尾別分類表によると、人名、地名、その他の固有名詞、普通名詞に共通に見られる現象は、-A, -И, -Оで終る名詞が非常に多いことである。-A, -И, -О名詞(391語)とそれ以外の名詞(167語)とのパーセントは70と29.9になっている。Ⅱ型アクセントを持つ399語のなかで-A, -И, -Оで終る名詞は312語、それ以外の語尾を持つ語は87語で、パーセントは78.1と21.8になる。

更にⅠ型アクセントと、Ⅱ型アクセント及びⅡ型+Ⅲ型アクセントのパーセントを、それぞれのグループとは無関係に各音節ごとに見ていくと、2音節語ではⅠ型(58語)とⅡ型(112語)のパーセントは34.1と65.8となる。

3音節語ではⅠ型(26語)とⅡ型+Ⅲ型(155語)は14.3と85.6で、4音節語になるとⅠ型(2語)とⅡ型+Ⅲ型(205語)は0.9と99と極端に落ちこんでいるのが特徴的である。

結論としてロシア語のなかの日本語固有名詞は、-A, -И, -Оの語尾とⅡ型アクセントを持つ語が極めて優勢で、Ⅰ型アクセントは音節が増加するにつれて激減することが明らかである。このような、ロシア語のなかの日本語アクセントの傾向は、今後どのように推移していくのだろうか。それには今後の研究をまたなければならないが、A. B. Суперанскаяの示唆にとむ次の言葉を引用して本稿を終えたいと思う。「固有名詞のアクセントの位置は、原語のアクセントの位置にかならずしも従属するものではない。多数の言語においてアクセントは、全く別の原則に基づいているか、あるいは概して現れることがない限り、ロシア語において固有名詞のアクセントは、屢々純粋にロシア語の基盤に立って、ただ条件によってのみ原語のアクセントと対比されるのである」。c. 57. 同書。

「現代の慣用と過去の辞書及び詩の資料とを比較してみると、19世紀初期における多くの固有名詞の発音は、20世紀初期におけるよりも原語のアクセントに一層接近していたことを示している。19世紀の中期と末期及び20世紀の初期においては、外来語がロシア語ノルマに従う法則は極めて強く働いていた。現代では、18世紀末—19世紀初期におけるように、外来語を原語アクセントに従って発音する傾向が強まっている。20世紀の第2半期にとって特徴的な、固有名詞の、伝統的なアクセントからの著るしい後退は、明らかにこれによって説明される。この結果現代では、伝統的な名詞の範囲が狭くなった。とはいえ、好み、慣習、知識を持つ世代の交替が、今日の著るしい伝統的ノルマを廃止に導くまでには、依然としてそれは存在しているし、更に長期間にわたって存在を続けるであろうと思われる」c. 58. 同書。

語 尾 別 分 類 表

|    | 人 名 | 地 名 | その他 | 計   | %    |
|----|-----|-----|-----|-----|------|
| -A | 65  | 82  | 18  | 165 | 29.5 |
| -Я | 4   | 7   | 2   | 13  | 2.3  |
| -И | 56  | 52  | 24  | 132 | 23.6 |
| -У | 9   | 21  | 7   | 37  | 6.6  |
| -Ю | 1   | 6   | 2   | 9   | 1.6  |
| -Э | 12  | 4   | 3   | 19  | 3.4  |
| -Е | 1   | 13  | 2   | 16  | 2.8  |
| -О | 33  | 39  | 22  | 94  | 16.8 |
| -Ё | 11  | 4   | 5   | 20  | 3.5  |
| -Ы |     |     | 1   | 1   | 0.1  |
| -Й | 7   | 7   | 12  | 26  | 4.6  |
| -Н | 1   | 9   | 16  | 26  | 4.6  |
| 計  | 200 | 244 | 114 | 558 | 99.4 |

## 参 考 文 献

Большая советская энциклопедия. Третье издание. тт. 1-30. М., “Советская энциклопедия”, 1970-1978.

Суперанская А. В. Ударение в собственных именах в современном русском языке. М., “Наука”, 1966.